

平成 26 年度

# 事業報告書

平成 26 年 4 月 1 日から  
平成 27 年 3 月 31 日まで

公益財団法人 浄土宗ともいき財団

## 目次

平成26年度 概況 .....	3
-----------------	---

### I 公益目的事業

ア. 地域交流事業 .....	4
A. 寺院・僧侶対象	
B. 地域住民対象	
イ. 助成事業 .....	5
ウ. 相談活動事業 .....	5
A. 相談活動	
B. 人材育成	
エ. 国際協力事業 .....	6
A. 国際支援活動	
B. 国際交流活動	
オ. ラジオ番組制作事業 .....	7
カ. 普及活動事業 .....	7
A. 協力活動	
B. 印刷物等	
C. インターネット	

### II 収益事業

ア. 出版事業 .....	10
A. 書籍の制作	
B. 書籍の販売	
イ. 物品販売事業 .....	10
A. グッズの製作	
B. グッズの販売	

### III 管理部門

ア. 会員管理・寄付金 .....	11
イ. 会議 .....	11
ウ. 菩提寺研修センター解体工事 .....	11

# 平成 26 年度 概況

平成 26 年度は、公益財団法人として 2 年目の年となり、25 年度の事業整理やガバナンス強化をさらに進める一方で、新たな事業展開を模索する 1 年となった。

また、「まち・ひと・しごと創生本部」の設置による政府の地方創生政策が具体的に動き出し、当財団が推し進める「お寺からまちおこし」の活動がこの政策と関連付けて展開しうる可能性が出てきた。

このような環境において、26 年度事業計画に記載した、3 つの基本方針に即して事業を実施したので、その概況を報告する。

## 基本方針

### 1. 事業の整理・充実化

#### ① 地域交流事業の活性化

「お寺からまちおこし」を目的とした地域交流事業を活動のメインに据えて、地域住民対象の出前寺子屋を 15 件、過疎地対象の活動として巡礼事業 2 件、ともいき日高プロジェクト 1 件、被災地支援活動としての子ども寺子屋（田植え・稲刈り体験ツアー）を年 2 回行った。また、当該事情の集大成として 3 月にともいき防災プロジェクトの実施を兼ねたシンポジウム「ともにいきるお寺、ともにいきる社会」を開催し、お寺を通じた社会貢献の必要性を訴えた。

#### ② 「ともいきの会」の設立・運営

①の地域交流事業をさらに活性化させるための応援団として、「お寺からまちおこし」の理念に賛同する著名人で組織される「ともいきの会」を設立し、3 月に第 1 回会合を開催した。

### 2. 広報活動の拡大、会員拡充

長年の懸案であった PR 不足という課題に対して、読売新聞・朝日新聞・毎日新聞・日本経済新聞各社の報道関係からなる「ともいき懇談会」を組織した。3 月 16 日に第 1 回会合を開催し、今後当財団の活動を社会に発信するための助言を受けることとなった。その他、引き続き WEB サイトにて新しい情報と提供するとともに、Facebook を活用した広報活動を行った。また、行事開催の際にはプレスリリースを配信し、公益活動の PR に勤めた。結果的に、会員数は昨年度対比で増加となった。

### 3. 財政基盤の安定化

会員数の微増、有価証券売却収入や事業収入など増加した項目はあるが、受取補助金や寄附金の減少のほか、「浄土宝暦」においては将来的な市場の拡大が現段階で見込めていないため、平成 27 年度以降の不安要素はいまだ残ったままである。

# I 公益目的事業

## ア. 地域交流事業

お寺が公益活動を行うことで、地域住民の交流を促し豊かな地域社会の形成を目指す事業。平成26年度の新たな事業として、和歌山県日高地方の寺院・地域住民と協働し、仏教行事を核にして地域の振興を図る「ともいき日高プロジェクト」を展開、その他事業に関しては前年度事業を継承して事業を行った。

### A. 寺院・僧侶対象

僧侶や寺庭婦人の資質向上を促し、一般・檀信徒にとって有益な寺院の構築を目指す。

#### ◆ともいき財団シンポジウム「ともにいきるお寺、ともにいきる社会」

(※防災プロジェクトを兼ねる)

平成26年度、設立100周年を迎え、これを記念して本シンポジウムを開催した。過疎化、少子化、地域コミュニティの希薄化など、人と人とのつながりが薄れてきていることが社会問題となっている昨今、政府も「地方創生」の政策に乗り出した。お寺の世界でも地域のためにお寺を活用し、住民を支え、元気にするための取り組みが行われ始めている。本シンポジウムでは、お寺とNPO、さまざまな団体が連携して地域課題を解決する取り組みの方向性を探ることを目的とし、参加者とともに今後の展望について考えた。シンポジウム終了後は、同会場2階にて参加者交流会を開催した。

[日時] 平成27年3月26日(木) 15:00～18:30 参加者：60名

[会場] 大本山増上寺 慈雲閣(東京都港区芝公園4-7-35)

[プログラム]

#### 1、活動報告

藤木雅雄・浄土宗ともいき財団 理事/事務局長

東海林良昌・介護者サポートネットワーク・ケアむすび代表

岡崎秀信・日高念仏大法会奉修委員会委員長

江崎礼子・ミャンマー祭り実行委員/株式会社ソノリテ代表取締役

#### 2、パネルディスカッション「ヒト・モノ・コトのつながり方ーキーワードは“お寺”」

(パネリスト) 東海林良昌・同上

岡崎秀信・同上

江崎礼子・同上

(コーディネーター) 名和清隆・浄土宗総合研究所研究員/淑徳大学講師

### B. 地域住民対象

①地域社会の活性化に寄与することを目的とした催しを行う。

◆出前寺子屋 全国各地15ヶ所で開催(うち被災地対象は1件)

②仏教的行事を活用した町おこし

主に過疎地を対象に、地域活性化を促す催しを地元のお寺に提案し、開催を支援し

た。コーディネーターとして企画立案から関わるものもあり、全国各地の団体と協働関係を結んでいる。26年度の連携状況は以下の通り。

◆巡礼事業（企画・手配）

石見の国いきいき巡礼コンサート（島根） 平成26年10月7日～9日

大往生の島コンサート（山口・周防大島） 平成26年10月29日～31日

◆ともいき日高プロジェクト（企画・広報・資金協力）参加者：300名

日高念仏大法会（和歌山・日高地方）平成26年11月9日（5ヶ年計画）

◆願海庵祭り（企画・手配・人材派遣）岩手・二戸市 平成26年10月11日

③その他被災地対象 ※東日本大震災被災地支援活動

東日本大震災の復興支援に取り組む浄土宗教師からの求めに応じ、事業協力を行う。

◆子ども寺子屋 ※東日本大震災被災地支援活動（共催・企画・資金/人材協力）

親子で行こう！田植え・稲刈り体験ツアー

田植え：平成26年5月24日～25日（福島・西会津）参加者：40名

稲刈り：平成26年9月27日～28日（福島・西会津）参加者：40名

※全日本仏教会 災害救援活動団体に対する助成（第8次、第9次）を受けた事業

## イ. 助成事業

国内外における公益活動やボランティア活動など仏教精神に基づく社会貢献活動において、その活動の実施主体者である浄土宗寺院・関係団体から申請があった場合、その資金の全部または一部を助成し「寺院を通じた社会貢献活動」を推進する事業。また災害発生時には、災害に対するボランティア活動支援を行う浄土宗寺院・関係団体に援助をおこなう。理事会で審査を行い、審査方法は当法人の募集要項に基づいて年間100万円を上限に助成を行った。助成先に対しては中間及び結果報告を求めた。

### 【26年度助成団体】

◆常福寺 三遊亭歌奴独演会 助成金：6万円

◆正福寺 正福寺サラナ親子教室 助成金：10万円

◆西蓮寺 「織田瑟瑟桜画」でまちづくり 助成金：8万円

◆介護者サポートネットワーク・ケアむすび 介護者支援事業 助成金：237,792万円

◆社会慈業委員会ひとさじの会 炊き出し夜回り事業 助成金：48万円

## ウ. 相談活動事業

仏教精神に基づく相談活動とその人材育成をおこなう事業。平成26年度の活動は、電話相談室の運営、東日本大震災により家族を亡くした石巻市の遺族のケアを行う「心のケア支援プロジェクト@西光寺」のほか、各種研修会を開催し、相談員の拡大に努めた。

### A. 相談活動

◆心といのちの電話相談室 毎週月曜日10時～16時受付

相談員数：各回3人体制 のべ32人（27年3月31日時点）

相談件数：年間214件（1日平均5件 総着信数316件）

分野別件数：人生（121件）、家族（66件）、対人（34件）、保険・医療（32件）  
教育（7件）、性（1件）、法律・経済（18件）、仏事相談（57件）  
死別（17件）、情報提供（5件）、その他（3件）

その他：相談員のための規程・ガイドライン等の整備、広告掲載、記事掲載

◆心のケア支援活動@石巻 ※東日本大震災被災地支援活動

実施日：毎月1回（8月、10月を除く）

支援スタッフ数：月によって変動あり。3～6名（支援スタッフ、財団職員）

会場：宮城県石巻市・西光寺

対象人数：10名前後（月によって変動あり）

支援スタッフ総数：9名（27年3月31日時点）

## B. 人材育成

◆「心といのちの電話相談室 第4期電話相談員養成講座」全5回

第1回 平成27年1月13日 電話相談の基礎①、②

第2回 平成27年1月27日 ロールプレイ、仏教カウンセリング

第3回 平成27年2月12日 グリーフケア（喪失のケア）、ロールプレイ

第4回 平成27年3月6日 言語・非言語コミュニケーション、ロールプレイ

第5回 平成27年3月13日 電話を使ったロールプレイ、傾聴をするにあたっての確認

開催案内：12月発送（全国7,000ヶ寺）

新規相談員候補：12名

◆電話相談振り返り

目的：相談員が受けた相談の内容や対応方法について振り返り、相談員の疑問や対応の問題点等について全員で話し合い、解消方法を探った。

日時：第1回 平成26年6月6日（金）14:00～16:00 参加者：11名

第2回 平成26年9月10日（水）14:00～17:00 参加者：7名

第3回 平成27年1月22日（木）14:00～17:00 参加者：11名

◆被災地での支援者養成講座 スーパービジョン（スーパーバイザー：大河内大博）

目的：グリーフケアについての講習、被災者に対する支援内容や対応方法に関する話し合いを行い、ケアする側の精神面のフォローおよびチームとしての意識を高めた。

日時：第1回 平成26年4月21日（月）10:00～17:00 参加者：7名

第2回 平成26年10月21日（火）10:00～17:00 参加者：9名

第3回 平成27年2月16日（月）14:00～17:00 参加者：7名

## エ. 国際協力事業

当財団の「世界に共生（ともいき）を」の理念に基づき、主にアジア仏教圏に対し寺子屋（政府認定の小学校）建設のための経済支援を行う事業。現在、ミャンマーを中心に活動をしているのは寺子屋が公的な機関として認定されていること、他国と比べて校舎建設

の緊急性が高いという理由によるものである。

平成 26 年度は寺子屋建設支援のほか給食支援や保健指導といった、ソフト面での支援を優先した。また、昨年度に引き続き「ミャンマー祭り」を 2 日間にわたり開催し、59,000 人の来場者を集め、両国間の交流を深めた。

## A. 国際支援活動

主にアジア仏教圏での青少年の健全な育成・発展を支援する事業。

### ①校舎建設への経済的支援・既存校舎の修繕

- ◆ミャンマー寺子屋 第 3 校目の校舎修繕 平成 26 年 9 月 17 日  
第 11 校目の建設支援 平成 27 年 1 月 27 日開校

### ②給食支援・保健指導・NPO との協力による教育プログラムの提供

- ◆給食支援 平成 26 年 8 月 27 日(第 10 校目)  
平成 27 年 1 月 27 日実施(第 9 校目)  
寺子屋に通う生徒からサンクスカードを預かり、支援者に届ける活動を実施。

- ◆NPO 法人国境なき楽団(代表:庄野真代氏)による音楽ワークショップ実施  
第 9 校目 平成 27 年 1 月 31 日(会場提供・資金協力)  
資金協力額:100,670 円

### ③災害時における緊急支援

当年度は実施なし

## B. 国際交流活動

海外の宗教団体や非営利団体と交流し、双方向での情報発信と協力関係の構築に努める。

- ◆スタディーツアーの開催 平成 26 年 8 月 25 日～29 日実施 参加者:10 名
- ◆「ミャンマー祭り 2014」の開催 平成 26 年 10 月 17 日～18 日  
主催者として企画・運営、ブース出展を行った。  
[主 催] ミャンマー祭り実行委員会  
浄土宗ともいき財団・NPO 法人メコン総合研究所・駐日ミャンマー大使館  
[会 場] 浄土宗大本山 増上寺 [来場者] 59,000 人

## オ. ラジオ番組制作事業

当年度は受託がなかったため、実施なし

## カ. 普及活動事業

「寺院を通じた社会貢献」に対する理解を深め、公益活動の広まりを目指す事業。  
平成 26 年度は「お寺からまちおこし」の理念に賛同し、主に<ア. 地域交流事業>に対する協力者(文化人・著名人)で組織される「ともいきの会」、広報活動に対する助言や提言を受けるために報道関係者によって構成された「ともいき懇談会」を設立し、公益活動の普及に努めた。また、インターネットによる普及活動に関しては、ホームページでの情報公開や、Facebook、Twitter といった一般に浸透している SNS やサイトを積極的に活用し、

幅広い世代への支援・公益活動の理解と普及を促進した。

## A. 協力活動

公益活動を行う団体等との交流を深め、相互の連携と協力関係の構築に努める。

### ◆「ともいきの会」、「ともいき懇談会」の発足（100周年記念式典実施）

[日 時] 平成27年3月16日（月）17:00～20:00

[会 場] ホテルオークラ東京

[内 容]

・17:00～18:00 ともいき懇談会

「仏教界のあり方を考える」をテーマに議論を行った。

[出席者]

山折 哲雄氏	（宗教学者）
老川 祥一氏	（読売新聞グループ最高顧問・主筆代理）
豊岡 瞭尔	（浄土宗宗務総長）
袖山 榮眞	（浄土宗ともいき財団理事長）
北村 敏泰氏	（中外日報社常務取締役編集局長）
小林 敬和氏	（中央公論新社取締役会長）
真田 和義氏	（毎日新聞常務執行役員）
宮川 匡司氏	（日本経済新聞文化部）
森本 俊司氏	（朝日新聞大阪本社事業部）
浅野 義光師	（浄土宗総長公室長）
新谷 仁海師	（災害復興事務局長）
戸松 義晴師	（総合研究所主任研究員）
藤木 雅雄	（浄土宗ともいき財団事務局長）

・18:00～20:00 ともいきの会 参加者：33名

当財団が行っている「お寺からまちおこし」活動を映像で紹介し、寺院訪問の様子やミニコンサートなどを行い、会員同士の懇親を深め、更なる協力を要請した。

また、内閣官房の「まち・ひと・しごと創生本部」事務局次長の麦島健志氏が石破茂大臣の代理として出席し、当財団の活動が地域と寺院との関係を認識させてくれたとして、今後の連携の可能性を示唆し、協力していきたい旨の挨拶をした。

◆浄土宗新聞広告掲載 電話相談室案内（隔月）

◆フリースタイルな僧侶たち（フリーペーパー）広告掲載 電話相談室案内（通年）

◆保育雑誌MIRAKU 広告掲載 電話相談室案内（1回）

◆向源へのブース出展 4月29日

## B. 印刷物等

### ①制作

◆事業パンフレット 8,000部

◆会報誌「ともいき MEMBER'S」1,000部



- ◆助成団体募集 告知 7,000 部
- ◆ミャンマースタディツアー案内 7,000 部
- ◆コンセプトブック「縁 JOY おてら」 12,500 部
- ◆ 上記申込用紙 6,000 部
- ◆ 上記アンケートのお願い 6,000 部
- ◆ミャンマースタディツアーチラシ 6,000 部
- ◆石見の国いきいき巡礼コンサートチラシ 2,000 部
- ◆ 上記ポスター 100 部
- ◆日高念仏大法会チラシ 1,500 部
- ◆ 上記ポスター 200 部
- ◆大往生の島コンサートチラシ 2,000 部
- ◆ 上記ポスター 100 部
- ◆巡礼コンサートTシャツ製作
- ◆電話相談員養成講座ご案内 6,000 部
- ◆ミャンマー寺子屋給食支援のお願い 7,000 部
- ◆ミャンマー祭り報告書 6,000 部
- ◆設立 100 周年シンポジウムチラシ 10,000 部

## ②配布

- ◆財団パックの発送

## C. インターネット

- ◆ホームページの運営
  - ・オンライン寄付・グッズ申し込みシステム等の導入
  - ・最新イベント等の情報発信
  - ・電話相談室、助成申請等の情報掲載
- ◆SNS (Facebook、Twitter) の運営
  - ・イベントの集客 PR (有料広告の活用) …投稿数 1 件 リーチ数 1,608 人
  - ・活動の告知・報告…投稿数 60 件 リーチ数 14,279 人
  - ・協力団体との情報共有

※リーチ数とは、どれだけの人がある記事に到達したかということ。
- ◆プレスリリース
  - ・インターネットを活用したプレスリリース配信
  - ・PR 情報サイトへのイベント等の投稿

## Ⅱ 収益事業

### 公益活動を行うための収益事業

#### ア. 出版事業

日本の文化・行事などに根差した仏教的精神を知らしめるための書籍「浄土宝暦」の出版を行った。平成 26 年度は浄土宝暦に広告枠を設け、企業等からの広告掲載を募った。

##### A. 書籍の制作

- ◆平成 27 年版浄土宝暦の制作

##### B. 書籍の販売

- ◆平成 27 年版浄土宝暦の販売  
見 本：7,500 部  
売上部数：333,235 部（単価 90 円）

#### イ. 物品販売事業

劈頭宣言普及のためのグッズ製作事業。26 年度は新製品の開発を行いつつ、業者に卸すなど販路拡大に努める。

##### A. グッズの製作

- ◆「人間法然」の制作
- ◆法然上人散華封筒の制作

##### B. グッズの販売

- ◆法然上人スゴロクの販売  
売上部数：215 部

- ◆法然上人散華の販売

販売の方式として 50 枚 1 組・各絵柄 10 枚ずつの「セット」と、5 枚 1 組・各絵柄 1 枚ずつの「バラ」の二種がある。

売上部数：第一弾…セット：178 組 バラ：222 組  
第二弾…セット：84 組 バラ：74 組

### Ⅲ 管理部門

#### ア. 会員管理・寄付金

宗の内外を問わず広報を行い、会員数および寄付金の増加を目指した。

税額控除対象法人として認可を受けたことを会員募集広告・パンフレット等にてアピールし、会員獲得に努めた。

#### ◆平成 26 年度会員

正会員： 363 名（内 未収 22 名）  
応援会員： 25 名（内 未収 7 名）  
法人会員： 37 法人（内 未収 2 名）

---

会員合計： 388 名 + 37 法人

#### ◆会費と特典

個人会員 ①正会員（1 口 1 万円）  
②応援会員（1 口 3 千円）  
法人会員（1 口 5 万円）

- ※1 会員はすべて税制上の優遇措置が受けられる。
- ※2 会員には会報誌を発送する。
- ※3 浄土宗教師には功績点を付与。

#### イ. 会議

下記のとおり会議を開催した。

- ◆監査会 平成 26 年 5 月 15 日  
平成 26 年 12 月 2 日
- ◆理事会 第 3 回 平成 26 年 5 月 23 日  
第 4 回 平成 27 年 2 月 10 日
- ◆評議員会 第 3 回 平成 26 年 6 月 23 日  
第 4 回 平成 27 年 2 月 24 日

#### ウ. 菩提寺研修センター解体工事

平成 17 年に宗教法人菩提寺との間に締結した「再譲渡予約契約書」「合意書」及び平成 26 年に締結した「覚書」に基づき、下記の通り解体工事を実施した。

##### 1. 取り壊した建物の概要

- (1) 建物 3 件（所有者：宗教法人 菩提寺）  
①名称 菩提寺研修センター

所 在 勝田郡奈義町高円 1528 番地  
構 造 鉄骨造ルーフィング葺平屋建  
床面積 401.52 m<sup>2</sup>

②名 称 物置

構 造 コンクリートブロック造亜鉛メッキ鋼板葺平屋建  
床面積 1.92 m<sup>2</sup>

③名 称 油脂庫

構 造 コンクリートブロック造亜鉛メッキ鋼板葺平屋建  
床面積 11.83 m<sup>2</sup>

(2) 未登記建物ないし物件 6 件

2. 建物取壊しの目的

建物が老朽化し安全性に問題があるため、取り壊して境内地の安全を確保する。

3. 取壊し費用

(1) 解体費 14,040,000 円

(2) 支払い方法 内 金 5,000,000 円 (平成 26 年 8 月 19 日振込)  
完了時 9,040,000 円 (平成 26 年 9 月 25 日振込)

5. 工事の概要

(1) 工事請負者 有限会社 西尾重機 (岡山県真庭市岡 215)

(2) 工 期 平成 26 年 7 月 1 日～平成 26 年 9 月 11 日

## 理事会

第 3 回理事会		
H26.05.23 明照会館 4 階 第 1 会議室	<<議案>> 1. 平成 25 年度事業報告及び財務諸表の件 2. 平成 25 年度計算書類(貸借対照表及び正味財産増減計算書)及び付属明細書並びに財産目録の件 3. 平成 26 年度第 1 回助成 助成団体選考の件 4. 諸規程の制定及び改定 5. 第 3 回評議員会の日時及び場所並びに目的である事項等の件 <<報告事項>> 1. 職務執行状況の報告	原案通り満場一致で承認 原案通り満場一致で承認 原案通り満場一致で承認 原案通り満場一致で承認 原案通り満場一致で承認
第 4 回理事会		
H27.02.10 明照会館 4 階 第 1 会議室	<<議案>> 1. ラジオ番組制作事業の件 2. 物品販売事業の件 3. 定款及び諸規程の改定の件 4. 平成 27 年度事業計画及び収支予算の件 5. 第 4 回評議員会の日時及び場所並びに目的である事項等の件 <<報告事項>> 1. 職務執行状況の報告 2. 監事による上半期監査報告	原案通り満場一致で承認 原案通り満場一致で承認 原案通り満場一致で承認 原案通り満場一致で承認 原案通り満場一致で承認

## 評議員会

第 3 回評議員会		
H26.06.23 明照会館 4 階 第 1 会議室	<<議案>> 1. 平成 25 年度事業報告及び財務諸表の件 2. 平成 25 年度計算書類(貸借対照表及び正味財産増減計算書)及び付属明細書並びに財産目録の件 <<報告事項>> 1. 平成 26 年度第 1 回助成 助成先について	原案通り満場一致で承認 原案通り満場一致で承認
第 4 回評議員会		
H27.02.24 明照会館 4 階 第 1 会議室	<<議案>> 1. 定款、役員及び評議員報酬等規程の一部改定の件 2. 平成 27 年度事業計画及び収支予算の件 <<報告事項>> 1. 職務執行状況の報告 2. 監事による上半期監査報告	原案通り満場一致で承認 原案通り満場一致で承認

## 平成 26 年度事業報告 附属明細書

平成 26 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

平成 27 年 5 月  
公益財団法人 浄土宗ともいき財団